

1 ダイオウ

2 基原及び生薬の性状の項を次のように改める。

3 本品は *Rheum palmatum* Linné, *Rheum tanguticum*
4 Maximowicz, *Rheum officinale* Baillon, *Rheum coreanum*
5 Nakai又はそれらの種間雑種(*Polygonaceae*)の根茎及び根で
6 ある。

7 本品は定量するとき、換算した生薬の乾燥物に対し、セン
8 ノシドA (C₄₂H₃₈O₂₀ : 862.74) 0.25%以上を含む。

9 生薬の性状 本品は円柱形、円錐形又は不定の塊状で、しばし
10 ば横切又は縦割され、径3～11 cm、長さ3～19 cmである。
11 根茎は、皮部のほとんどを除いたものでは外面が黄褐色～褐
12 色又は赤黄褐色、髄からなるものでは黄褐色～淡褐色で、表
13 面あるいは断面に赤褐色の大理石様の網目模様及び放射紋を
14 認めるものがあり、質は緻密で堅い。コルク層を付けている
15 ものでは、外面は暗褐色～黒褐色で、粗いしわがあり、質は
16 粗くてもろい。根茎の横切面は灰褐色、灰黄褐色又は褐色で
17 ある。ルーペ視するとき、周辺部に環状の維管束がある。黒
18 褐色に黄白色及び淡赤褐色の入り組んだ複雑な模様があり、
19 この模様は形成層の付近でしばしば放射状を呈する。髄は広
20 く、周辺に褐色で径1～7 mmの放射紋が環状に並び、その
21 内側に種々の断面の放射紋が散在する。根は、コルク層を付
22 けているものと、皮部まで除いたものがあり、外面の色はそ
23 れぞれ根茎と同様である。断面は緻密で、大理石様の模様を
24 認めるものもあるが、髄及び放射紋は認めない。根の横切面
25 は褐色～赤褐色又は黄褐色を呈し、環状の形成層が明らかで、
26 木部に放射状の線がある。

27 本品は特異なおいがあり、味は僅かに渋くて苦い。かめ
28 ば細かい砂をかむような感じがあり、唾液を黄色に染める。

29 根茎の横切片を鏡検〈5.01〉するとき、二次皮層が残存す
30 るものでは、円形～不定形の大型の粘液腔を認めるものがあ
31 る。木部には1個又は数個からなる道管群が放射方向に並ぶ。
32 髄にはところどころに同心性又は偏心性の異常維管束があり、
33 形成層の内側に師部、外側に木部が形成され、2～4細胞列
34 の放射組織が形成層輪の中心から放射状に外方に向かって走
35 る。異常維管束では師部に粘液腔を認めるものがある。通例、
36 師部放射組織及び木部放射組織中に黄褐色～赤褐色の内容物
37 を認める。柔細胞はでんぷん粒及び径20～150 μmのシュウ
38 酸カルシウムの集晶を含む。根の横切片を鏡検〈5.01〉する
39 とき、コルク層及び二次皮層が残存するものではコルク層は
40 4～9細胞層で、二次皮層に粘液腔が散在するものがある。
41 師部放射組織は1～4細胞列。木部には1個又は2～数個から
42 なる道管群がほぼ同心円状に配列するか散在する。木部放射
43 組織は直線的で、1～2細胞列である。通例、放射組織中に
44 黄褐色～赤褐色の内容物を認める。柔細胞はでんぷん粒及び
45 シュウ酸カルシウムの集晶を含む。

46
47